

# 幼児における性役割の習得過程

——幼児期前期にみられる性差と性役割の習得過程におけるモデルの問題——

南 憲 治

心理学で扱われる性差の範囲は広く、性差研究は多岐にわたっている。また、近年、ウーマンリブ運動、性教育ブーム、性の濫用といった社会現象を背景にして内外をとわず性差や性に社会的な関心が集まり、心理学においても性差研究が急激な増加を示している。このことは、最近、性差をテーマにした心理学書があいついで出版されている (Maccoby & Jacklin, 1974; Friedman, Richart, & Vande Wiele, 1974) 他、1973年度の Nebraska symposium on motivation が性差と性を特集していることにもみられる。

このような中で、性差研究の1つの独自な分野として発展しているものに性役割の研究がある。性役割は、多くの社会的役割の中でも最も重要で基本的な役割である。人は、誕生するとまもなく性に合った行動様式をとることが社会から期待され、適切な性役割を習得することは、幼児が社会化していく上での中心的な課題の1つである。それゆえ、性役割の習得過程の研究は、幼児の社会化の過程を明らかにするための重要な研究分野になっている。

幼児の性役割が、本格的に研究されはじめたのは、1950年代、主として1960年代になってからである。Brown (1956) が考案した幼児用の性役割選択テストである It scale for children によって幼児期の性役割研究が刺激され、性役割の発達の様相が明らかにされるようになった。その結果、性役割の概念が比較的はっきりしてくるのは、自分の性が正しく言えるようになる3歳以降であり、だいたい5～6歳までに性役割の概念が確立することが明らかにされている (井上, 1959; 小橋川, 1969; Ward, 1969)。したがって、幼児期前期にあたる1～3歳頃にみられる性差や性役割行動については、従来、ほとんど関心が向けられず、もっぱら3～4歳以上の幼児が性役割の研究対象とされてきた。しかし、最近、幼児期前期の子どもの行動にみられる性差や性役割行動についての研究も増加し、性役割の習得過程を理解する上で貴重なデータを提供している。

また、初期の性役割研究における事実の記述の段階から、性役割の習得過程そのものを明らかにしようとする傾向が、ここ10年来の特徴として指摘できる。性役割の習得過程の中には、大人の側からのしつけと、子どもがモデルを観察し性役割を学習していく2つの側面が考えられるが、性役割の分野で、モデルを扱った研究は、1960年代には小橋川の一連の研究 (たとえば、小橋川, 1966, 1967など) を除くとほとんどみられなかった。ところが、ここ数年、幼児の性役割との関連でモデルを実験的にとり扱った研究が増えてきており1つの傾向になりつつある。

本論文は、幼児の性役割研究においてみられる以上2つの傾向を最近の文献を中心に概観することを目的にしている。

### 1. 幼児期前期にみられる性差

性差意識が形式されるのは、3歳以降であることから(深谷, 1970), 3歳前の幼児にみられる性差は生物的な要因によって規定される割合が大きいと考えられる。したがって、幼児期前期にみられる性差は、性役割行動の基礎にある生物的要因を検討する上で示唆に富む知見を我々に与えてくれる。しかも、半陰陽の子どもの臨床的データから、性役割の習得の臨界期として Money ら (1957) が3歳, Hampson (1965) が1歳半~2歳を指摘していることを考えると、3歳前の性差や性役割行動についての研究がもっている意義がより明確になってくる。

まず、玩具を使った遊びにみられる性差について調べると、1歳から1歳半では、玩具選択で性差が認められるもの (goldberg & Lewis, 1969; Bronson, 1971; Jacklin, Maccoby, & Dick, 1973) と、性差が認められないもの (Brooks & Lewis, 1974) とがある。このうち性差が認められた研究についてみると、Bronson (1971) は、15ヶ月の幼児において、犬のぬいぐるみと新奇な物が置かれている場面で、女兒は男児よりもぬいぐるみでより多く遊ぶという結果を得ている。同様の結果は、13ヶ月児で Goldberg と Lewis (1969) によっても報告されている。それによると女兒は男児に比べて、ぬいぐるみの犬、プラスチック製の猫、ブロック、ペグボードで遊ぶ割合が大きく、一方、男児は女兒よりも玩具をたたいたり、活発に遊ぶことが明らかにされている。このように女兒が男児より、ぬいぐるみを選択するという結果は、女兒が顔のついている玩具に興味を示すことによるのかどうかを検討するために Jacklin ら (1973) は、13~14ヶ月児を用いて実験を行なった。それによると、ぬいぐるみで遊ぶ割合に性差は認められず、男児は男性玩具である(顔のついている)ロボットで女兒よりも長く遊ぶことが明らかになり、女兒が顔のある玩具を好むという結果は認められなかった。

1歳半、特に2歳以上になると玩具選択にみられる性差が顕著になってくる。それと同時に男女とも自分の性に合った玩具で遊ぶ傾向がでてくる。Fein ら (1975) は、男性玩具(ハンマー、トラック、ピストル)と女性玩具(ビーズの腕輪、人形、アイロン)で20ヶ月の幼児を自由に遊ばせた。その結果、男児はハンマーで、女兒は人形と腕輪で好んで遊ぶことが見出された。Etaugh ら (1975) は、1歳半から2歳半の幼児(平均24ヶ月)の自由遊び場면을観察したところ、男児は、Fein ら (1975) の結果と同様、ハンマーを好むことと、物を運搬する玩具でよく遊ぶという結果が得られた。一方、女兒は絵をかいたり、先生の話をよく聞いたり、先生の助けをすることが明らかになった。

また、Clark ら (1969) は、2~4歳児の自由遊びを観察し、男児はブロックや動かして遊ぶ玩具でよく遊ぶのに対し、女兒は人形で遊んだり、絵をかいたり、物を切ったり、縫ったりすることを報告している。同様に、3歳児(平均41.8ヶ月)の自由遊びの観察によると、男児は、ブロックを組み立てたり、物を運搬する玩具(トラック、飛行機、汽車、ボート)でよく遊び、女兒はクレヨンやチョークで絵をかいたり、人形で遊ぶことが示されている (Fagot & Patterson, 1969)。遊びだけでなく一般的な行動も含めて Pedersen と Bell (1970) は、2歳半の幼児を観察し、次の結果を得ている。男児は、女兒に比べてよく歩きまわり、攻撃的で活発で従順ではなく、ブロックや玩具をよくいじる。一方、女兒は、男児よりも粘土で遊んだり、ブランコや滑り台でよく遊ぶ。

次に、遊び以外で特徴的に性差が認められる行動について検討する。活動水準についてみると、1歳半までは多くの研究が一致して性差を認めていない（たとえば、Rheingold & Eckerman, 1969; Rheingold & Samuels, 1969など）。1歳半以降も、3歳頃までは多くの研究で性差は認められていない（たとえば、Lewis, Wilson, & Baumel, 1971; Zern & Taylor, 1973など）が、この年齢でもいくつかの研究において男児の方が活動的であることが指摘されている（Pedersen & Bell, 1970; Halverson & Waldrop, 1973; Maccoby & Jacklin, 1973）。しかし、男児の方が活動水準が高いとしている研究においても、ある種の行動においてのみ性差がみられるだけで、他の多くの行動では活動水準に性差が認められていない場合が多い。たとえば、Pedersen と Bell (1970) の研究によれば、男女（2歳半）とも、目標物を手に入れるために障害物を取り壊す点では性差が認められず同程度に活動的であり、さらに、走りまわる量や三輪車に乗る量にも性差はみられなかった。ただ、男児の方が女児よりもよく歩きまわるという点で活動水準が異なるだけであった。また、Halverson と Waldrop (1973) の研究では、2歳半の子どもが1人で遊んでいる時の活動水準に性差は認められなかった。ところが、集団で遊ぶ場合に、女児では1人の時と変わらないのに対し、男児の活動性は1人の時と比べると増加したので活動水準に性差がみられた。この年齢においてみられる活動水準の性差と、より年長児において顕著に認められる活動性の性差とを直接に結びつけることはできないように思われる。なぜなら、この時期の活動水準は一貫した個人の特性ではなく、ある一時期の活動性と他の時期の活動性との間の相関が低いことが指摘されている（Maccoby & Feldman, 1972）からである。

一方、女児に特徴的にみられる行動として従順性が指摘できる。9～12ヶ月児では、母親の言語的な指示に対する従順性に性差は認められていない（Stayton, Hogan, & Ainsworth, 1971）が、Minton ら (1971) は、27ヶ月児を家庭で観察したところ、男児より女児の方が、母親の言語的な指示にすぐ従う傾向がみられた。同様の結果は、2歳児において保母の指示に対する反応にもみられている（Pedersen & Bell, 1970）。

また、女児は、男児よりも人などの社会的な刺激に対して、より敏感であるという結果が報告されている（Fagan, 1972）。それによると、5～6ヶ月の女児は男児に比べて人の顔の弁別にすぐれていることが見出された。

ところで、行動にみられる性差だけでなく、この時期の幼児はどの程度、自分の性を認知しているのだろうか。多数の3歳児（3歳0ヶ月～3歳1ヶ月）を用いた実験によると、3歳では、自分の性を言語を使って言うことはできないが、父母に対してそれぞれ固有のイメージが形成されつつあること（深谷, 1965）、そして、自分の性の言語化は、3歳から3歳半の間に急速にできるようになること、また、3歳において父母の概念化が一定行なわれているが、男女の概念はまだ十分に形成されていないことが明らかにされている（深谷, 1970）。

Thompson (1975) は、3歳前の幼児における性のラベルの発達とその機能について実験を行ない、次の結果を得ている。

- (1) 24ヶ月で他人の性を区別することができ、品物の性的帰属も、ある程度、理解できるようになる。しかし、まだ自分に性のラベルを適用することはできない。
- (2) 30ヶ月になると、性の弁別が非常に正確になり自分の性がわかるようになるが、まだ性のラベルによって行動は影響をうけない。

(3) 36ヶ月になると、自分の性や他人の性、品物の性的帰属も理解できるようになる。さらに、性のラベルによって行動が影響をうけるようになる（即ち、中性的な品物に自分の性のラベルがつけられると、その品物を選択する）。

(4) 全体として性役割の分化の程度に性差はみられない。

以上の結果は、ほとんど外国のものである。文化や社会的条件の異なるわが国で、3歳前の幼児の行動にどのような性差がみられるかを明らかにしていくことも必要であると思われる。

## 2. 性役割の習得過程におけるモデルの問題

### 2-1 理論的考察

ここ2～3年、性役割の分野においてモデルを扱った実験的研究が増えつつある。これは、幼児に及ぼすモデルの影響を調べた実験が、1960年代以降、Bandura のモデリング理論に刺激され急増していることの1つの反映であると考えられる。

これらの実証的な研究に触れる前に、性役割の習得に関する3つの理論（同一視理論、社会的学習理論、認知発達理論）のそれぞれにおいて、モデルの問題がどのように考察されているかをみておく。

まず、同一視理論は、複雑な性役割行動が、大人のしつけや子どもの意識的な学習によって習得されるのではなく、同性の親との同一視によって自然に習得されると主張する（Mussen, 1969）。この立場にたつ Mussen は、精神分析学の概念である同一視を学習心理学からとらえ直した Mowrer や Sears の発達の同一視理論の流れを汲んでいる。

発達の同一視理論では、母親が幼児の一次的欲求を満足させていると、幼児にとって母親の行動が二次的報酬価をもつようになるので、母親の行動を再生しようと動機づけられるとされる。その結果、男女とも最初は母親と同一視するが、後に男児は同一視の対象を母から父へ変えるようになると仮定される。これをうけて Mussen は、同一視の成立条件として同性の親の養護的態度（nurturance）と統制力（power）を考え、親が同性の子どもに養護的で、統制力が強いと、子どもは同性の親との同一視によって性役割を習得すると説明する。そして、一連の研究において（たとえば、Mussen & Distler, 1960; Mussen & Rutherford, 1963 など）、「同性の親の養護的態度、統制力→適切な性役割の習得」の関係を実証している。しかし、小橋川（1969）が指摘するように、この関係を実証しても、そこに同一視の過程が媒介しているのか、あるいは、しつけが作用しているのかは明白でない。

確かに、同一視によって性役割の習得過程を説明するのは便利がよい。しかし、どのようなプロセスで同性の親との同一視が成立し、モデルの行動特性がどのようにして習得されていくのかに関して不明確な点が多い。これは、結局、この理論が精神分析学と学習理論の折衷に終わっているところからきているものと考えられる。

このような同一視理論の曖昧さを排除するために、同一視のプロセスに影響を与える諸要因を実験的に検討しようとしたのが Bandura である。彼によると従来、人格心理学において同一視、実験心理学において模倣とよばれてきた現象は同じものであるとされ（Bandura & Walters, 1963）、人格形成における観察学習の役割が強調される。この Bandura の理論に刺激されて、多くのモデルに関する実験的研究が行なわれるようになった。その結果、模倣に影響を及ぼす諸

要因が明らかになり、従来、同一視理論の枠内で考察されていた事象が、新しく社会的学習理論の立場からより分析的に検討されるようになった。

社会的学習理論では、モデルが示す性役割行動を観察するだけで、たとえその行動を遂行したり、それに対して強化をうけなくても幼児はモデルの示範行動を習得すると考えられている。そして、観察によって習得された行動が遂行されるか否かは、その行動が遂行された場合の結果に依存している (Mischel, 1966)。この点について、Bandura (1972) は、子どもは自分がとる行動をその行動が遂行される前に予期的に自己評価し、自己報酬的 (self-rewarding)、または、自罰的 (self-punishing) に反応することを指摘し、このようなプロセスを自己強化とよんでいる。したがって、この立場では、モデルの示範行動の習得と遂行の区別が重視され、幼児はモデルの観察によって異性役割行動も習得すると考えられている。しかし、異性役割行動が行動として遂行されないのは、異性役割行動をとると自分に不適切だとか、叱られるといった認知的、あるいは動機的要因が働くからである。

次に、認知発達理論では、性役割の習得は、親のしつけなどの社会的要因とは無関係で、もっぱら、子どもの認知能力にのみ依存し、子どものもっている性役割の概念によって性役割行動は規定されると考えられている (Kohlberg, 1966, 1969; Kohlberg & Ullian, 1974)。性役割についての概念は、認知能力の発達に伴って変化する。幼児は、2～3歳になると、自分は男(女)であるという性的同一性 (gender identity) を確立し、数や量の保存が獲得される6～7歳になると、人間の性が、服装や髪型を変えても変化しないという性的同一性の恒常性 (constancy of gender identity) が獲得される。そして、この段階以降、子どもは、性的同一性によって同性モデルとの類似を認知し、その行動は自己概念と一致するので模倣されるようになる。したがって、Kohlberg (1966, 1969) が指摘するように、同性モデルの模倣に関して、この理論は同一視理論とは逆のプロセスを仮定しており、まず、性的同一性の確立の後、同性モデルの模倣へと進むと考えられている (表1参照)。

表1 男児の父親模倣の成立過程に関する同一視理論と認知発達理論の比較 (Kohlberg, 1969)

Neo-Psychoanalytic Identification Theory	Cognitive-Developmental Theory
1. Orientation to father as major rewarder or punisher with associated dependency.	1. Sex-typed identity.
↓	↓
2. Identification or imitation of father.	2. Imitation or identification with father.
↓	↓
3. Sex-typed identity.	3. Orientation to father as major rewarder with associated dependency-companionship.

## 2-2 実証的研究

幼児がモデルによって性役割を習得する過程をみると、各理論とも、同性モデルの観察、または、模倣をとりあげている。即ち、モデルによる性役割行動の観察学習においては、モデルの性と幼児の性の関係が重要な変数になってくる。

それゆえ、ここでは、モデルの性が幼児の観察学習の過程にどのような影響を及ぼしているか

について、Bandura (1972) の観察学習の下位過程を参考にして、注意のレベル、保持のレベル、一致反応の遂行のレベル別に実験結果をまとめることにする。

(1) 注意のレベル

成人で、男女とも同性モデルにより多く注意するという結果が Maccoby ら (1958) によって報告されている。幼児においても、Kohlberg が重視する性的同一性の恒常性が獲得されたり、同性モデルの行動を模倣することに強化をうける経験を積み重ねると、異性モデルよりも同性モデルにより注意するようになると考えられる (Mischel, 1970)。

Slaby と Frey (1975) は、従来のモデルの性の影響を調べた研究が幼児の性役割についての認知の水準を考慮していない点を指摘し、性役割の概念の発達水準とモデルの性の違いによる選択的注意の関係を明らかにしようとした。そこでは、幼児の性役割概念の発達の1つの重要な水準として、量や重さの保存の獲得と対応すると考えられる性的恒常性 (gender constancy) の獲得がとりあげられている。この性的恒常性は、性的同一性 (gender identity)、時間を越えての性の安定性 (gender stability over time)、場面と動機を越えた性の一貫性 (gender consistency across various situations and motivations) の3つの下位カテゴリーから成り、各カテゴリーを測定するための質問が用意されている。質問の結果によって、各被験児の性的恒常性が、4つの水準に分けられる。被験児は、平均50ヶ月 (26~68ヶ月) で、性的恒常性の水準が決められた後、男女のモデルが種々の行動を示範する映画を見る。その結果、男児でのみ性的恒常性の水準が高い幼児は、低い幼児に比べて同性モデルをより多く見ることが明らかになった。したがって、性的恒常性の水準が、幼児の性役割行動を規定することが示唆された。また、性的同一性、性の安定性、性の一貫性の順に発達することが見出されている。

(2) 保持のレベル

社会的学習理論によると、幼児が同性モデルの行動を模倣することに対して強化をうけると、幼児は、その行動を習得したり遂行するようになると考えられる。そして、最初、同性モデルは、親などの特定の人物であったのが、さらに他の同性モデルの行動の習得、模倣へと一般化することが推測される。この点を実証するために、Grusec と Brinker (1972) は、実験の第一段階として、特定のモデルの行動を模倣することに強化が随伴されると、子どもが、そのモデルの行動を習得するか否かを検討した。被験児は、小学校1、2年生の男女で、最初に2人の男性モデルが登場する映画をみせられた後、モデルの模倣をさせられ、一方のモデルの模倣にだけ賞が与えられた。つづいて、前と同じモデルが登場する別の映画を見ている被験児の眼球運動が記録され、映画の終了後、2人のモデルの行動を被験児に想起させた。その結果、注意レベルの眼球運動には、モデルによる差は認められなかったが、模倣が強化されたモデルの行動がより多く想起された。この結果から、同性モデルの模倣に対して強化をうけることを経験すると、同性モデルの行動が異性モデルの行動よりもより多く習得されることが示唆された。そこで、実験の第二段階として、異性モデルより同性モデルの行動がより多く習得されるか否かが調べられた。被験児は、5歳と7歳の男女で、まず、男女のモデルが中性的行動、ならびに攻撃的行動、養護的行動を示範するのを観察した後、モデルの示範行動の想起が求められ、正反応には賞が与えられた。それによると、被験児は、異性モデルより同性モデルの行動をより多く想起するという結果が得られた。この傾向は、男児において顕著であった。また、女兒は、男児と比べると女性モデルの養護

的な行動をより多く想起するという興味のある結果も認められている。

Perry と Perry (1975) は、Grusec と Brinker (1972) の結果をうけ、男女とも男らしい子どもは、男性モデルを模倣することに、一方、女らしい子どもは、女性モデルを模倣することに強化をうけた経験があるという仮定に基づいて、次の仮説を実験によって検討した。男らしい子どもは、女性モデルより男性モデルの行動をより多く習得する。また、女らしい子どもは、男性モデルの行動よりも女性モデルの行動をより多く習得する。

小学校 3, 4 年生の児童が、It scale を修正した性役割選択テストによって、男らしい男児、女らしい男児、男らしい女児、女らしい女児の 4 群に分けられた。そして、被験児は、男女のモデルが中性的行動を示範する映画を見た後、モデルの行動を想起させられ、正答には賞が与えられた。それによると、男らしい子どもは、女性モデルの行動よりも男性モデルの行動をより多く想起することが認められたが、女らしい子どもは、女性モデルの行動を男性モデルの行動よりも多く想起するという結果はみられなかった。この実験では、各群の半数の被験児には、モデルの行動を黙って観察させ、残りの半数の被験児にはモデルの観察中に、モデルの行動を自由に言語化させている。その結果、男らしい子どもは、女性モデルよりも男性モデルの行動をより多く言語化することが明らかになり、これは、男らしい子どもが男性モデルの行動をより多く想起したという前述の結果と対応している。したがって、この結果は、モデルの示範行動の保持にとって言語化などによる象徴的コーディングが重要であるとする Bandura (1972) の見解を支持している。

### (3) 一致反応の遂行レベル

遂行レベルは、注意、保持のレベルに比べると、モデルの性の影響に関するデータが蓄積されている。しかし、性役割との関連でモデルの性の問題を直接に扱っている研究は少ない。ここでは、性役割との関連で行なわれてはいない研究も含めて、モデルの性が模倣行動に及ぼす影響について概観する。

これまでの研究を調べると、異性モデルの模倣よりも同性モデルの模倣がより多くみられた研究 (Bandura et al., 1961; Rosenblith, 1961; 小橋川, 1966; Hetherington & Frankie, 1967; Fryrear & Thelen, 1969; Ward, 1969; 平井・浅沼, 1970; Cook & Smothergill, 1973; Keller & Murray, 1973; Wolf, 1973; Wolf, 1975) と、モデルの性の影響が認められなかった研究 (Bandura et al., 1963b; Bandura & Kupers, 1964; Hetherington, 1965; Rickard et al., 1970; Masters, 1972; Wolf, 1976) とがある。そのうち、同性模倣がみられた研究について、被験児の年齢、モデルの行動などをまとめると表 2 になる。一方、モデルの性の影響が認められなかった研究をまとめたのが、表 3 である。この他、男女とも、女性モデルより男性モデルをより多く模倣するという結果も得られている (Rosenblith, 1959; Bandura et al., 1963a; Hicks, 1965)。表 2 と表 3 をみるとモデルの行動が各実験で異なっており、結果を直接に比較することはできない。したがって、異性モデルよりも同性モデルがより多く模倣されるか否かといった問題のたて方をするのではなく、同性モデルの模倣がみられるなら、そのような同性模倣をひきおこす被験児の動機をモデルの行動との関連で明らかにする必要があるように思われる。

そこで、表 2 をみると女性役割であると考えられる優しい行動 (affectionate behavior) の場合、女児において、異性モデルより同性モデルがより多く模倣されている (Fryrear & Thelen,

南：幼児における性役割の習得過程

表2 異性モデルの模倣より、同性モデルの模倣がより多くみられた研究

	被験児の性と年齢	モデル	モデルの示範行動	コメント
Fryrear & Thelen (1969)	男女 (3~4歳)	成人	やさしい行動 (affectionate behavior)	女兒でだけ同性模倣がより多くみられた
Bandura et al. (1961)	男女 (3; 1~5; 9)	成人	攻撃的行動	男児でだけ同性模倣がより多くみられた
平井・浅沼 (1970)	男女 (3; 10~6; 1)	成人	攻撃的行動	
Cook & Smothergill (1973)	男女 (平均 4; 8)	成人	動物の絵の選択	
Hetherington & Frankie (1967)	男女 (4; 4~6; 5)	両親	玩具やゲームを使った中性的行動	
小橋川 (1966)	男女 (5; 10~6; 8)	子ども	玩具による異性役割行動	男児でだけ同性模倣がより多くみられた
Rosenblith (1961)	男女 (幼稚園児)	成人	色の選択	男児でだけ同性模倣がより多くみられた
Keller & Murray (1973)	黒人の男児 (6歳)	黒人の成人	攻撃的行動	被験児の半数は、母子家庭
Wolf (1975)	男女 (平均 6.61歳)	子ども	玩具による異性役割行動	
Ward (1969)	男女 (幼稚園~小学校2年生)	成人	数字の選択	年長児程、同性モデルを模倣
Wolf (1973)	男 (平均 8; 8) 女 (平均 9; 4)	子ども	玩具による異性役割行動	

表3 模倣行動にモデルの性の影響がみられなかった研究

	被験児の性と年齢	モデル	モデルの示範行動	コメント
Bandura et al. (1963 b)	男女 (2; 9~5; 5)	成人	言語反応、運動反応	
Masters (1972)	男女 (4~5.5歳)	成人	玩具による中性的行動	
Rickard et al. (1970)	男女 (幼稚園児)	成人	言語	
Wolf (1976)	男 (平均 7.4歳) 女 (平均 7.7歳)	成人	玩具による異性役割行動	
Bandura & Kupers (1964)	男女 (7~9歳)	成人とも子ども	ボーリング・ゲームにおける自己強化	
Hetherington (1965)	男女 (4~11歳)	両親	美の選択	dominant な親を模倣

1969)。一方、男性役割と考えられる攻撃的行動の場合、男児において、同性モデルがより多く模倣されている (Bandura et al., 1961)。また、異性役割行動において同性モデルの模倣が異性モデルの模倣よりも、より多く認められる場合、そこには、同性モデルが異性玩具で遊んでいるのだから、自分が異性玩具で遊んでも罰をうけないといった認知過程が働いているとされている (小橋川, 1966)。これらの結果は、同性モデルの模倣がモデルの行動の性質と密接に関係していることを示している。それゆえ、性役割の習得過程における同性モデルの問題を検討するには、単に異性モデルより同性モデルがより多く模倣されるか否かを調べるのではなく、同性モデルの模倣が、モデルの行動との関連で幼児の認知過程とどのように結びついて生じるのかを明らかにしていくことが重要であるといえよう。



その点、Kohlberg (1966, 1969) は、認知発達理論の立場から性役割の習得過程における同性モデルの問題をとらえ、前述したように、同性モデルの模倣が生じるのは、性的同一性の恒常性が獲得されてからであるとしている。そして、同性モデルの模倣には、具体的操作期の課題である類似性にもとづく事物の分類ができることが必要だとされる。したがって、同性モデルの模倣は、子どもがモデルとの性の類似を認知し、同性モデルの行動をとり入れようとする子ども自身の意識的な模倣であり、少なくとも、6～7歳にならないとみられないと考えられている。

そこで、同性モデルの模倣が何歳頃からみられるかを調べると(表2参照)、Kohlberg が指摘する6～7歳以降とも限らない。しかし、5歳以前に同性模倣がみられるとしても、それは性的同一性にもとづいた選択的で意識的な模倣ではなく、性役割の習得という点からは重要でないと考えられる。即ち、性的同一性の恒常性を獲得した子どもが、自分に合った行動様式を同性モデルから、意識的に習得していく過程こそが性役割の習得過程において重要であるといえよう。

以上、性役割の習得過程におけるモデルの問題のうち、モデルの性の影響に限って概観してきたが、性役割との関連でモデルを扱っている研究には、この他に、異性役割行動に及ぼすモデルの影響をみた小橋川の一連の研究(たとえば、小橋川, 1967; 小橋川・清村, 1968など)や、モデルによる玩具の性的帰属の言語化が幼児の性役割行動に及ぼす影響を調べた研究(南, 1975)がある。

ところで、社会的学習理論では、実物のモデルだけでなく、漫画にして描かれた象徴的なモデルも実物モデルと同様に効果があることが実証されている(Bandura et al., 1963a)。性役割の習得の場合にも、テレビや本の中に登場するモデルが、子どもの性役割の習得に重要な役割をはたしていると考えられる。この点に関して、テレビの子ども向けのコマーシャルが、伝統的な性役割を流していることが明らかにされている(Sternglanz & Serbin, 1974)。同様に、Frueh と McGhee (1975) は、多くのテレビ番組が伝統的な性役割を子どもに伝達しているので、テレビをみる時間が長い子ども程、性役割の習得程度が高いことを報告している。

また、幼児用の絵本に登場する人物が、伝統的な性役割行動を示していることも明らかにされている(Weitzman et al., 1972)。それによると、男児は活動的に、女児は受動的に描かれている。また、男性は種々の職業についているのに対し、女性は妻や母としてのみ描かれている。McArthur と Eisen (1976) は、幼稚園児を用いて、物語の中の同性モデルが示す達成動機によって、その物語を聞いた幼児の達成動機が強くなることを報告している。特に、男児において、達成動機が男性モデルによって示されると女性モデルによって示される場合に比べて、より強く影響をうけることが明らかになった。しかし、女児では、モデルの性による差はみられなかった。

本論文で紹介したモデルに関する研究の多くは、社会的学習理論に基づいて行なわれている。それゆえ、ともすれば、観察学習がどの発達段階の幼児にも同じように効果があるというとらえ方がされ、幼児の発達水準を充分におさえずにモデルの影響を検討している研究もみられる。しかし、前述したように、モデルが幼児に及ぼす影響は、幼児の認知的な発達水準と密接に関係していると考えられる。したがって、性役割の習得過程におけるモデルの問題を明らかにしていくには、認知発達理論が重視する性役割概念の発達の水準との関連でモデルの影響をみていくことが、今後の方向として必要であると考えられる。

引用文献

- Bandura, A. 1972 Modeling theory: some traditions, trends, and disputes. In R. D. Parke (Ed), Recent trends in social learning. New York: Academic Press. Pp. 35-61.
- Bandura, A., & Kupers, C. J. 1964 Transmission of patterns of self-reinforcement through modeling. *J. abnorm. soc. Psychol.*, 69, 1-9.
- Bandura, A., Ross, D., & Ross, S. A. 1961 Transmission of aggression through imitation of aggressive models. *J. abnorm. soc. Psychol.*, 63, 575-582.
- Bandura, A., Ross, D., & Ross, S. A. 1963 a Imitation of film-mediated aggressive models. *J. abnorm. soc. Psychol.*, 66, 3-11.
- Bandura, A., Ross, D., & Ross, S. A. 1963 b A comparative test of the status envy, social power, and secondary reinforcement theories of identificatory learning. *J. abnorm. soc. Psychol.*, 67, 527-534.
- Bandura, A., & Walters, R. 1963 Social learning and personality development. New York: Holt, Rinehart & Winston.
- Bronson, W. C. 1971 Exploratory behavior of 15-month-old infants in a novel situation. Paper read at the meeting of the Society for Research in Child Development, Minneapolis. Cited by E. E. Maccoby, & C. N. Jacklin (Eds.), *The psychology of sex differences*. Stanford: Stanford Univ. Press, 1974. Pp. 419-420.
- Brooks, J., & Lewis, M. 1974 Attachment behavior in thirteen-month-old, opposite-sex twins. *Child Developm.*, 45, 243-247.
- Brown, D. G. 1956 Sex-role preference in young children. *Psychol. Monogr.*, 70, No. 14.
- Clark, A. H., Wyon, S. M., & Richards, M. P. M. 1969 Free play in nursery school children. *J. child Psychol. Psychiat.*, 10, 205-216.
- Cook, H., & Smothergill, D. W. 1973 Racial and sex determinants of imitative performance and knowledge in young children. *J. educ. Psychol.*, 65, 211-215.
- Etaugh, C., Collins, G., & Gerson, A. 1975 Reinforcement of sex-typed behaviors of two-year-old children in a nursery school setting. *Developm. Psychol.*, 11, 255.
- Fagan, J. F., III. 1972 Infant's recognition memory for faces. *J. exp. Child Psychol.*, 14, 453-476.
- Fagot, B. I., & Patterson, G. R. 1969 An in vivo analysis of reinforcing contingencies for sex-role behaviors in the preschool child. *Developm. Psychol.*, 1, 563-568.
- Fein, G., Johnson, D., Kosson, N., Stork, L., & Wasserman, L. 1975 Sex stereotypes and preferences in the toy choices of 20-month-old boys and girls. *Developm. Psychol.*, 11, 527-528.
- Friedman, R. C., Richart, R. M., & Vande Wiele, R. L. (Eds.) 1974 *Sex differences in behavior*. New York: John Wiley & Sons.
- Frueh, T., & McGhee, P. E. 1975 Traditional sex role development and amount of time spent watching television. *Developm. Psychol.*, 11, 109.
- Fryrear, J. L., & Thelen, M. H. 1969 Effect of sex of model and sex of observer on the imitation of affectionate behavior. *Developm. Psychol.*, 1, 298.
- 深谷和子 1965 性差意識の形成過程(I)——3歳児の masculine-feminine identification について——東京教育大学教育学部紀要, 第11巻, 123—133.
- 深谷和子 1970 性による socialization の成立過程——性差意識の研究(そのII)——東京教育大学教育学部紀要, 第16巻, 197—213.
- Goldberg, S., & Lewis, M. 1969 Play behavior in the year-old infant: early sex differences. *Child Developm.*, 40, 21-31.
- Grusec, J. E., & Brinker, D. B., Jr. 1972 Reinforcement for imitation as a social learning determinant with implications for sex-role development. *J. pers. soc. Psychol.*, 21, 149-158.
- Halverson, C. F. & Waldrop, M. F. 1973 The relations of mechanically recorded activity level to

- varieties of preschool play behavior. *Child Developm.*, 44, 678-681.
- Hampson, J. L. 1965 Determinants of psychosexual orientation. In F. A. Beach (Ed.), *Sex and behavior*. New York: Wiley. Pp. 108-132.
- Hetherington, E. M. 1965 A developmental study of the effects of sex of the dominant parent on sex-role preference, identification, and imitation in children. *J. pers. soc. Psychol.*, 2, 188-194.
- Hetherington, E. M., & Frankie, G. 1967 Effects of parental dominance, warmth, and conflict on imitation in children. *J. pers. soc. Psychol.*, 6, 119-125.
- Hicks, D. J. 1965 Imitation and retention of film-mediated aggressive peer and adult models. *J. pers. soc. Psychol.*, 2, 97-100.
- 平井久・浅沼康雄 1970 情動行動の模倣に関する一考察 早稲田心理学年報, 2, 1-13.
- 井上和子 1959 幼児の性差意識の発達 児童心理, 14(6), 108-114.
- Jacklin, C. N., Maccoby, E. E., & Dick, A. E. 1973 Barrier behavior and toy preference: sex differences (and their absence) in the year-old child. *Child Developm.*, 44, 196-200.
- Keller, P. A., & Murray, E. J. 1973 Imitative aggression with adult male and female models in father absent and father present negro boys. *J. genet. Psychol.*, 122, 217-221.
- 小橋川 慧 1966 幼児の異性役割行動に及ぼすモデルの影響 教心研, 14, 9-14.
- 小橋川 慧 1968 幼稚園男児の女性役割り行動に及ぼすモデルの影響 教心研, 16, 1-6.
- 小橋川 慧 1969 性差と性役割の獲得 児童心理学講座 8巻 金子書房 Pp.137-184.
- 小橋川 慧・清村武子 1967 幼児の異性役割行動に及ぼすモデルの影響 教心研, 15, 34-41.
- Kohlberg, L. 1966 A cognitive-developmental analysis of children's sex-role concepts and attitudes. In E. E. Maccoby (Ed.), *The development of sex differences*. Stanford: Stanford Univ. Press. Pp. 82-173.
- Kohlberg, L. 1969 Stage and sequence: The cognitive-developmental approach to socialization. In D. A. Goslin (Ed.), *Handbook of socialization theory and research*. New York: Richard McNally. Pp. 347-480.
- Kohlberg, L., & Ullian, D. Z. 1974 Stages in the development of psychosexual concepts and attitudes. In R. C. Friedman, R. M. Richart, & R. L. Vande Wiele (Eds.), *Sex differences in behavior*. New York: John Wiley & Sons. Pp. 209-222.
- Lewis, M., Wilson, C. D., & Baumel, M. 1971 Attention distribution in the 24-month-old child: variations in complexity and incongruity of the human form. *Child Developm.*, 42, 429-438.
- McArthur, L. Z., & Eisen, S. V. 1976 Achievements of male and female storybook characters as determinants of achievement behavior by boys and girls. *J. pers. soc. Psychol.*, 33, 467-473.
- Maccoby, E. E., & Feldman, S. S. 1972 Mother-attachment and stranger-reactions in the third year of life. *Monogr. Soc. Res. Child Developm.*, 37.
- Maccoby, E. E., & Jacklin, C. N. 1973 Stress, activity and proximity seeking: sex differences in the year old child. *Child Developm.*, 44, 34-42.
- Maccoby, E. E., & Jacklin, C. N. 1974 *The psychology of sex differences*. Stanford: Stanford Univ. Press.
- Maccoby, E. E., Wilson, W. C., & Burton, R. V. 1958 Differential movie-viewing behavior of male and female viewers. *J. Pers.*, 26, 259-267.
- Masters, J. C. 1972 Effects of social comparison upon the imitation of neutral and altruistic behaviors by young children. *Child Developm.*, 43, 131-142.
- 南 憲治 1975 幼児の性役割行動の習得に及ぼすモデルの影響——玩具による遊びの分析を通して——日本心理学会 第39回大会発表論文集, 279.
- Minton, C., Kagan, J., & Levine, J. A. 1971 Maternal control and obedience in the two-year-old. *Child Developm.*, 42, 1873-1894.
- Mischel, W. 1966 A social-learning view of sex differences in behavior. In E. E. Maccoby (Ed.),

南：幼児における性役割の習得過程

- The development of sex differences. Stanford: Stanford Univ. Press. Pp. 56-81.
- Mischel, W. 1970 Sex typing and socialization. In P. H. Mussen (Ed.), *Carmichael's manual of child psychology*. 3rd ed. Vol. 2. New York: Wiley.
- Money, J., Hampson, J. G., & Hampson, J. L. 1957 Imprinting and the establishment of gender role. *A. M. A., Arch. Neurol. Psychiat.*, 77, 333-336.
- Mowrer, O. H. 1950 *Learning theory and personality dynamics*. New York: Ronald Press.
- Mussen, P. H. 1969 Early sex-role development. In D. A. Goslin (Ed.), *Handbook of socialization theory and research*. New York: Richard McNally. Pp. 707-731.
- Mussen, P. H., Distler, L. 1960 Child-rearing antecedents of masculine identification in kindergarten boys. *Child Developm.*, 31, 89-100.
- Mussen, P. H., & Rutherford, E. 1963 Parent-child relations and parental personality in relation to young children's sex-role preference. *Child Developm.*, 34, 589-607.
- Pedersen, F. A., & Bell, R. Q. 1970 Sex differences in preschool children without histories of complications of pregnancy and delivery. *Developm. Psychol.*, 3, 10-15.
- Perry, D. G., & Perry, L. C. 1975 Observational learning in children: Effects of sex of model and subject's sex role behavior. *J. pers. soc. Psychol.*, 31, 1083-1088.
- Rheingold, H. L., & Eckerman, C. O. 1969 The infant's free entry into a new environment. *J. exp. Child Psychol.*, 8, 271-283.
- Rheingold, H. L., & Samuels, H. R. 1969 Maintaining the positive behavior of infants by increased stimulation. *Developm. Psychol.*, 1, 520-527.
- Rickard, H. C., Ellis, N. E., Barnhart, S., & Holt, M. 1970 Subject-model sexual status and verbal imitative performance in kindergarten children. *Developm. Psychol.*, 3, 405.
- Rosenblith, J. F. 1959 Learning by imitation in kindergarten children. *Child Developm.*, 30, 69-80.
- Rosenblith, J. F. 1961 Imitative color choices in kindergarten children. *Child Developm.*, 32, 211-223.
- Slaby, R. G., & Frey, K. S. 1975 Development of gender constancy and selective attention to same-sex models. *Child Developm.*, 46, 849-856.
- Stayton, D. J., Hogan, R., & Ainsworth, M. D. S. 1971 Infant obedience and maternal behavior: the origins of socialization reconsidered. *Child Developm.*, 42, 1057-1069.
- Sternglanz, S. H., & Serbin, L. A. 1974 Sex role stereotyping in children's television programs. *Developm. Psychol.*, 10, 710-715.
- Thompson, S. K. 1975 Gender labels and early sex role development. *Child Developm.*, 46, 339-347.
- Ward, W. D. 1969 Process of sex-role development. *Developm. Psychol.*, 1, 163-168.
- Weitzman, L. J., Eifer, D., Hokada, E., & Ross, C. 1972 Sex-role socialization in picture books for preschool children. *Amer. J. Sociol.*, 77, 1125-1150.
- Wolf, T. M. 1973 Effects of live modeled sex-inappropriate play behavior in a naturalistic setting. *Developm. Psychol.*, 9, 120-123.
- Wolf, T. M. 1975 Response consequences to televised modeled sex-inappropriate play behavior. *J. genet. Psychol.*, 127, 35-44.
- Wolf, T. M. 1976 Effects of live adult modeled sex-inappropriate play behavior in a naturalistic setting. *J. genet. Psychol.*, 128, 27-32.
- Zern, D., & Taylor, A. L. 1973 Rhythmic behavior in the hierarchy of responses of preschool children. *Merrill-Palmer Quart.*, 19, 137-145.

(博士課程大学院生)